

(公開学習Ⅰ) 第1学年2組 生活科学習指導案

授業者 新 康 江
1年2組 教室

1. 単元名 わたしとかぞく ～かぞくっていいな～

2. 授業構成

(1) 教師と教材

本単元は、学習指導要領の次の内容に位置づけられている。

(2) 家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気をつけて生活することができるようにする。

家族とは、子どもたちにとって最も身近であり、家庭生活は子どもたちの成長に密接に関わり合っている。うれしくてたまらないことがあったとき、困ったことがおこったとき、まず聞いてほしい、話したいと思う相手は家族である。子どもたちは、家族のことを自分を理解してくれる大切な存在として感じている。また、生活の中でも身の回りの世話をしてくれる、なくてはならない存在とも感じている。家族が自分に寄り添いながら成長を認め、喜んでくれたり、さまざまな思いに共感してくれたりすることは、子どもが自分の存在をかけがえのないものとして実感することができるために大切なことである。しかし、子どもたちは、毎日の暮らしの中で家族のよさや温かさを実感し、お互い助け合い、支え合って生活していることをあまり意識していない。そこで学習を進めるにあたっては、まず自分自身の体験やかかわりを通して家族の温かさやよさを実感し、家族がお互い支え合っていきいきと生活していこうとしていることを感じとらせていきたい。

本時の活動では、一人一人の楽しかった家庭での出来事を話し合うなかで、家族とたっぷりふれあうこと、家族でゆったりと過ごすことがうれしいと感じる子どもの気持ちを認め、大切にしていきたい。そして子ども自らが家族に働きかけ家族とのかかわりを深めることによって、自分の家族のよさに気づくとともに、家族のことが大好きで家族にも愛されていることを実感できると考えている。

(2) 子どもと教師

本校の生活科・総合的な学習では、「自分づくりの力」「かかわる力」を育てたい力として、学習活動に取り組んでいる。生活科においては、「自分なりに課題を見つけ、主体的にかかわろうとする力」「かかわりの中から気づきを広げ、深めようとする力」さらに、「自己の願いや思いを豊かにし、生活に生かす力」を育てたいと考えている。

本学級の子どもたちは、4月から今まで幼稚園の年長と3回の交流を重ねてきており、次第に自分からすすんでかかわる姿が見られるようになってきた。また、子どもたちは学級内でも学習や当番活動など友達と仲良く助け合って生活をしている。家族構成はそれぞれ異なるが、子どもたちの生活には、親や祖父母、兄弟姉妹の支えや関わりも大きく影響している。学級でも、朝のスピーチや会話の中で、家族について話題にすることが多く、どの子どもも嬉しそうにいきいきと話をする。そのことから、子どもたちにとっての家族の存在の大きさや家族の中で大切に育てられてきたことが伺える。しかし、一方で家族の思いや願い、役割など知らないことも多く、家族にしてもらおうことが当たり前のような感覚もあり、なかなか自分のことが自分で出来ていないところもある。また、自分の生活が家族の思いや役割によって支えられていることを意識していない子どもも多い。家庭でくつそろえや食事の配膳などの手伝いをすることもあるが、自分の仕事として継続して実践している子どもは少なく、「お手伝いをしてあげる」という意識に留まっている。これは、自分も家族の一員としての役割を果たしていこうという主体的な認識が育っていないからではないかと考える。

そこで本時は、家庭で実際に体験したことを伝え合う活動を通して、今まで当たり前と思っ

て気づかなかった家族のよさや温かさに気づき、今より一層家族を思い、感謝する心を育てていきたい。また、見守られてきた自分や家族・家庭について見つめ直すことで家庭での自分の役割を自覚し、自分も家族の一員として支え合って生活していこうとする態度を育てていきたい。そして、家族のために役立ち、家族から感謝され認められることで自己肯定感を育み、自尊感情を高めていきたい。さらに自分と家族との強いきずなを実感し、家族への深い愛情を育むことは、他者への温かい思いへと発展し、これからも周りの人とのかかわりを大切にしながら生活しようとする態度へもつながると考える。

(3) 子どもと教材

みながそれぞれの立場で家族のことを思い、気持ちよく生活するために仕事をしていることを子どもたちに伝えていきたいと考えている。そこから、家族の温かい思いにふれ、家族の一員として何か自分にできることを実践していこうという意識を育てていきたい。また、自分の家族の様子や役割について紹介し合う中で、子どもたちはいろいろな家族があり、家族によって役割や分担の違いがあることを知ることになる。そのとき、男女が協力し、大人も子どもも支え合って家庭生活を営むことが何より大切であることを感じとらせていきたい。また、今後もお家の方と連携を図りながら、意欲的に子どもたちが仕事を続けていけるよう支援していきたい。さらに、家の仕事に限らず、家族のために自分にできることを見つけ、すすんで家族にあいさつをしたり、弟や妹に優しく接したり、祖父母に学校の様子をたくさん話したりすることも家族を支えることであることを認識させていきたい。家族の役に立ったという満足感や継続してやり遂げたという達成感は、自尊感情を高めることになり、家族のきずなをより強くしていくと考える。そして、自分にとって家族がかけがえのない存在であり、家族にとって自分はかけがえのない存在であることを子どもたちがしっかりと自覚し、家族のために自分のためにできることを精一杯実践していこうとする態度を育てていきたい。

3. 単元目標

- 家族や家庭生活に関心を持ち、自分も家族の一員であることを自覚し、家族のために自分にできることを見つけ、すすんで実践しようとする。 [生活への関心・意欲・態度]
- 家庭生活を支えている家族のことや、自分ができるようになったことを、自分なりの方法で表現することができる。 [活動や体験についての思考・表現]
- 家族や家庭のよさ、自分と家族とのつながりに気づくことができる。 [身近な環境や自分自身への気づき]

4. 学習計画 (全 12 時間)

<p>第1次 かぞくのことをもつとしよう (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族といてほっとするときやうれしいときについて話し合う。 ・家族にインタビューする計画を立てる。 ・家族のことを友だちと紹介し合う。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">わたしの名前 (学活 2)</div>
<p>第2次 かぞくのしごとややくわりをしらべよう (4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の中での家族の仕事や役割を調べる計画を立てる。 ・家族がどんな気持ちでどんな仕事をしているかまとめる。 ・調べたことを紹介し、気づいたことや感じたことを話し合う。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">おかあさん ありがとう (道徳 1)</div>
<p>第3次 かぞくのためにじぶんにできることにチャレンジしよう (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族のために自分ができることは何か考え、計画を立てる。 ・家で実践したことを自分なりにまとめる。 ・家での実践を紹介し合い、家族のよさを話し合う。(本時 2 / 5) ・家族からの手紙を読み、感じたことを話し合う。 	

5. 本時の学習について

(1) 本時目標

・家庭で実践したことを伝え合う活動を通して、家族のよさや温かさに気づき、家族への思いを深めることができる。

(2) 期待される児童の様相

- ア 自分が家族のために実践したことを自信をもって友だちに伝える。
- イ 今後もっと家族のために自分のできることを実践していこうという思いをもつ。
- ウ 自分の発表と友だちの発表を重ね合わせながら聞き、家族のよさや温かさに気づく。

(3) 本時の展開

学 習 活 動	教師の支援 (◆)・意図(○)
1. 本時の学習のめあてを確認する。	○一人一人、自分が家庭で実践したことを自信をもって話すことができるよう意欲付けを図る。 ◆前時の実践発表を想起させ、友だちと自分の実践を重ね合わせながら聞くよう促す。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 自分が家で実践したことを紹介し合い、「かぞくっていいな」と思うことを話し合おう。 </div>	
2. 自分が実践したことを自分なりの方法で紹介し合う。 ・食器洗いを絵に表して ・洗濯物たたみを実演で ・お風呂洗いを写真で	○家で自分が実践したことを友だちに分かりやすく伝えると同時に、自分なりにがんばったという思いを自分のことばで伝えるようにさせる。 ○友だちの実践を興味・関心をもって聞けるよう、質問や感想発表を入れながら、学習を進めたい。 ◆発表の意欲が高まるよう、一人一人の発表について驚いたり称賛したりする。
3. 自分が実践して感じたこと、友だちの実践を聞いて思ったことを話し合う。	○家族のために仕事などを実践してみて、その大変さをどう感じたか、具体的な生活場面と重ね合わせながら話し合わせたい。 ○家族が今までずっと家の仕事を続けてきたこと、自分が家族に支えられてきたことへの気づきや感謝の気持ちを表現させたい。 ◆一人一人が、もっとこんなこともやってみたい、精一杯もっと続けていきたいという意欲を持てるようにしたい。
4. 家族からのメッセージを聞く。	○家の人たちは、自分たち家族への温かい思いや願いを込めて仕事をしたり、家族とかかわったりしていることに気づかせたい。 ◆自分の家族だけでなく、友だちの家族もみんな心がつながっていることを感じとらせたい。
5. 「あいのうた」をみんなで歌う。	○家族の思いや自分と家族のつながりを感じながら、みんなでやさしい気持ちで歌いたい。